

鼾および無呼吸症候群の治療装置

主たる提供特許	出願者	国立大学法人長崎大学
	題名	気道確保装置
	番号	W02009/066645

鼻マスクを使用しないエアバッグ装着型気道確保装置

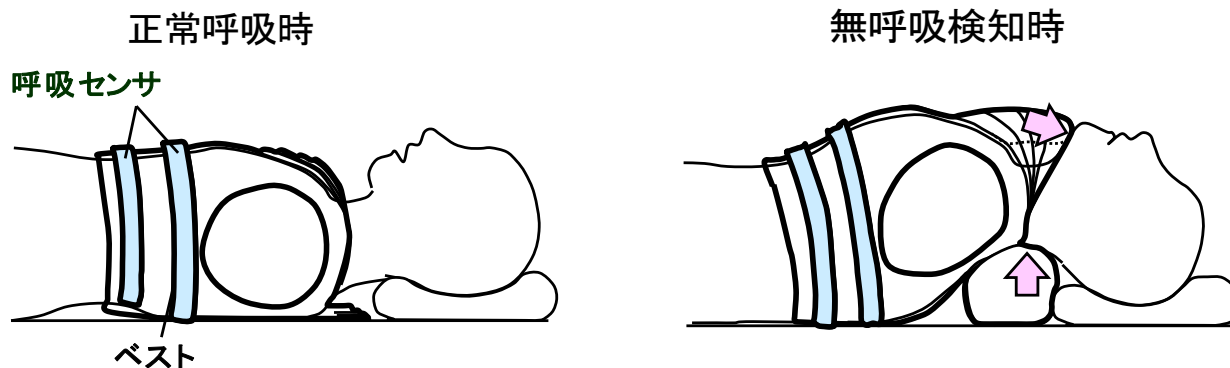
技術概要

発明の背景

- ・国内の睡眠時無呼吸症候群患者は約200万人とされています。自覚の無い人も多く、実際は成人男性で13%に上るとの報告もあります。
- ・CPAP療法と呼ばれる治療法が一般的です。これは鼻に空気マスクをつけて就寝し、空気を送って喉を膨らませることで気道閉塞を防ぎます。しかし、マスク装着の不快感、腹部膨満感、結露による顔面への水滴、鼻の渇きからくる鼻炎等問題点も多く、新しい治療装置の開発が望まれています。

発明概要

本装置は駆動用エアバッグおよび呼吸センサを内蔵した専用ベストとそれを制御するコントローラからなります。センサで呼吸の異常が検知されると、エアバッグが膨らみ、ゆっくりとベストが変形して気道確保に必要な「頭部の後屈」と「下顎の挙上」がなされます。



効果

口や鼻に装置を装着しないので、快適な睡眠が得られます。

応用分野

実用化例

- ・無呼吸症候群治療装置
- ・快適睡眠グッズ

企業へのメッセージ

製品化にご協力いただける企業を探しています。